

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究代表者 田村 和夫 福岡大学総合医学研センター教授

研究要旨

高齢者がん医療に関する情報を収集・解析し教育・研究・臨床の実態を明らかにし、日本の
医育機関で老年腫瘍学の系統だった教育・研究が乏しいこと、老年腫瘍科の欠如を明らかにし
た。さらに高齢者がん医療の現状をQ&Aの形でまとめ、モデル事業として「プレフレイル高齢
大腸がん患者のための臨床的提言」を提唱するためにさらに検討をしていく。

A. 研究目的

高齢者がん診療ガイドライン策定に必要な基
盤整備をすることを目的とする。

B. 研究方法

研究班と高齢者がん医療協議会が協働し多くの
協力者の支援を得て、高齢者がん医療に関する
診療の現状の調査、これまでのエビデンスを収
集・解析してQ&Aの形で整理する。医学部・医学
研究科ならびにがん診療連携拠点病院の老年腫
瘍学に関する教育・研究・診療の実態に関するア
ンケート調査結果を公表する。これらの研究成果
から高齢がん医療に関する問題点が抽出され、高
齢者がん診療ガイドライン委員会を設置しガイ
ドライン（GL）作成に向けて具体的な検討に入
る。また、外科治療、医療経済についての議論が
今までなかったことから、それぞれ委員会を設置
し、アンケート調査、費用対効果に関する研究が
スタートした。

C. 研究結果

「高齢者がん医療Q&A、各論」すなわち臓器
別の高齢者がんの治療については、2020年3月に
最終稿とした。これまでの研究からprefrail群が
加齢とともに増加し、多くの課題が存在すること
が明らかとなった。高齢がん患者のなかで症例数
が多く、マネジメントに苦慮するprefrailを中心
に予備的な検討を加えることになった。

まず、モデル事業として「プレフレイル高齢
大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」を提
示するために、6つのワーキンググループ（WG）
を置いて議論を始めている。

また、これまでの研究は内科系に偏っていたこ
とから高齢がん患者の外科治療を検討する外科
委員会、そして難題である医療経済について検討
する医療経済委員会を設置し、前者はがん診療連

携病院における高齢がん患者の手術に関する調
査を開始、後者は治療の費用対効果を評価するに
あたって外来化学療法を対象に検討を始めている
。

D. 考察

高齢者がん診療指針策定に必要な情報と解析
が行われ、がん治療は可能だが標準的な治療は困
難なprefrailが多数おり、そのマネジメントに
特化した検討が必要であることが分かった。その
課題克服に向けてガイドライン作成委員会を設
置して議論を進めていくことが適切であると考
えられた。

E. 結論

エビデンスの少ない高齢者がん診療におい
て指針を作成していくには、内科系以外の領域
の調査や大腸がんモデル事業を通して臨床的提
言を行うことによりその方向性が明らかとなり、
大腸がんの診療ガイドラインの作成につながり、
それ以外の領域でもにも波及することが予想され
る。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Nishijima TF, Tamura K, et al: Landscape
of Education and Clinical Practice in
Geriatric Oncology: A Japanese Nationwide
Survey. Jpn J clin Oncol 27;
49(12):1114-1119, 2019

2. 学会発表

Nishijima TF, Tamura K. Education and
clinical practice in geriatric oncology: a
Japanese nationwide survey. J Geriatr Oncol
10. 2019 (suppl; abstr p166)

西嶋智洋、田村和夫：高齢者がん医療調査・医学教育・診療について P2-275 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし